

令和元年 5 月 13 日

令和元年度 事業報告（案）

社会福祉法人 相互福祉会
理事長 掛江恒男

はじめに

本年度は、4月22日に飯田前理事長が亡くなり、深い悲しみに包まれました。

飯田前理事長が築き上げてきた法人及び希望学園をはじめとする各事業をいかに継承していくかが直面する課題となりました。

まずは、法人の経営及び事業の運営について新しい体制の構築に取り組みました。また、創設者の信念と創設の思いを整理、明文化し、これを法人の基本理念として継承していくこととし、3月26日の理事会において採択しました。

年度の後半（1月～3月）は、新型コロナウイルス感染防止の対策に追われましたが、必要な対策を徹底しながら、利用者の施設生活をできる限り平常に近い状態で継続することに努めました。情勢はまだまだ予断を許しません、懸命な水際対策の結果、年度末時点で、利用者、職員の感染はありません。

「平成31年度社会福祉法人相互福祉会事業計画」において掲げた重点目標を踏まえ、令和元年度の取組における成果と課題を報告します。

1. 法人運営の適正化

ア 規定の整備、理事会・評議員会の適正な開催と運営

今年度、理事会及び評議員会は下記（表1）のとおり適正に開催しました。

（表1） 理事会開催状況

開催日	決議事項
令和元年 5 月 10 日	① 前理事長お別れ会（日時・会場・実行委員会等）
令和元年 6 月 4 日	① 平成 30 年度事業報告 ② 平成 30 年度決算報告・監事監査報告 ③ 理事の選任候補者選定 ④ 監事の選任候補者選定 ⑤ 定款の一部変更 ⑥ 評議員および理事・監事の報酬規程の制定 ⑦ 就業規則の一部改訂 ⑧ 理事長の職務の執行の状況報告

	⑨ 定時評議員会の開催（日時・会場・議案等）
令和元年 6 月 20 日	① 理事長の選任
令和 2 年 3 月 26 日	① 令和元年度補正予算、特別積立金積立支出 ② 令和 2 年度事業計画、当初予算及び特別積立金取崩し ③ のぞみ工房整備事業経過報告及び資金調達計画 ④ 特別積立金の名称・目的変更 ⑤ 法人基本理念の制定 ⑥ 就業規則の一部改訂 ⑦ 理事長の職務執行状況報告

評議員会開催状況

令和元年 6 月 20 日	① 平成 30 年度事業報告 ② 平成 30 年度決算報告・監事監査報告 ③ 理事選任（6 名） ④ 監事選任（2 名） ⑤ 定款の一部変更 ⑥ 評議員及び理事・監事の報酬規程の制定 ⑦ 評議員選任解任委員会報告
---------------	--

評議員選任解任委員会

令和元年 5 月 29 日	① 評議員の選任
---------------	----------

イ 社会福祉充実計画の実施

平成 29 年度に福岡県の承認を受けた「平成 29 年度～平成 32 年度 社会福祉充実計画」における 3 年度目にあたる今年度は、計画にある多機能型事業所の拡充に向けて、事業所整備計画に従い設計委員会を 18 回開催しました。また、新事業所の建設は、令和 2 年 7 月着工に向けて福岡県との事前協議を行いました。

令和 3 年 4 月の事業開始を目標に具体的に計画を実施していきます。

2. 財政基盤の強化

ア 各事業の定員の充足

令和元年度は、希望学園において 5 名の退所者があり（表 2）、利用者が減少しました。退所の理由は退所者の内 4 名が病死であり、利用者の高齢化が進む中避けられない状況です。

一刻も早い定員の充足が課題であり、更に入所待機者を作りタイムリーに入所者を確保していくことが必要となります。

3 月 31 日現在、5 名の方から希望学園入所相談を受け付けています。それぞれ、体験利用を経て入所につないでいきます。

(表2) サービス区分別定員の状況 (R2.3.31 現在) (単位:人)

施設・事業所	サービス区分	定員	現員	欠員	前年比
希望学園	施設入所	80	73	7	-3
	生活介護	90	80	10	-3
グループホーム ニューのぞみ	共同生活援助	30	26	4	1
のぞみ工房	生活介護	8	8	0	0
	就労継続支援 B 型	16	11	5	0

イ 地域の福祉ニーズの発掘と情報収集

自立支援協議会の粕屋南部ネットワーク会議や、粕屋地区ライフレスキュー・サポーター会議への参加、関係のある特定相談支援事業所、成年後見人受任者の方々との交流を通して様々な福祉ニーズの情報収集を目指しましたが、具体的な取組みには至りませんでした。

3. 人材の確保と育成

ア 職員の採用と適正な配置

職員の採用については、平成30年度に改正した新しい就業規則や給与・賞与規程等の新制度を公表し、ハローワークをはじめ、福岡県社会福祉協議会や福祉人材養成学校等に積極的に求人を行いました。

結果として、令和2年4月1日付採用者を含め11人採用することができました。特筆すべきは、勤続1年以上の職員の離職が1人に留まった事です。働きがいの向上を目指した諸規定改正の成果と考えられます。

イ サービス管理責任者更新研修の計画的受講

サービス管理責任者更新研修は、優先順位をつけ計画的に推進しましたが、年度後半は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、研修そのものが中止となる等、予定した研修をすべて消化することはできませんでした。

ウ 外部講師による施設内研修と職員自主勉強会への支援

今年度は外部講師による施設内研修を3回実施しました(表3)。支援の現場で関心が高いテーマを選択し、それぞれ専門性の高い講師から話を聞いたり、グループワークに取り組み、職員全員で共有できる研修になったと思います。

職員の自主勉強会については、支援策の提案等具体的に推進することができませんでした。職員の資格取得の推進につながるよう、支援策を構築する必要があると思います。(参考:福祉関係資格保有状況(表4))

(表3) 外部講師による園内研修会

日時	テーマ	講師
4月9日	利用者に寄り添う施設のリスクマネジメント	JIC九州(株)損保代理店
1月14日	てんかんと内服薬について	きらり薬局薬剤師
2月12日	施設における感染症対策のポイント	白十字株式会社

(表4) 福祉関係資格保有状況

(令和2年4月1日現在、職員数70人(管理職を除く))

資格名	保有者数	保有率
社会福祉士	5人	7.1%
精神保健福祉士	2人	2.9%
介護福祉士	25人	35.7%
合計	32人	45.7%

4. 地域福祉への貢献

今年度も引き続き、粕屋地区ライフレスキュー事業に参加し、地域の生活困難者支援に取り組みました。職員の協力もあり、電気炊飯器や電子レンジ等生活家電の提供を行いました。また、職員1名がサポーター研修を受講し、有資格者を2名体制としました。

引き続きサポーター資格者の増員に努め、当面は粕屋地区ライフレスキュー事業に積極的に参加を続けることで地域の生活困難者支援に役立っていきたいと考えます。